



ピンチをチャンスに 変えられる研究会に

名古屋市音楽教育研究会会長
弥富小学校長 青木 香織

音楽教育研究会では、これまで、新学習指導要領実施に向けて、鑑賞活動と表現活動との関連を通じた音楽的思考力の育成、対話的な授業を行うための話し合いの方法やワークシートの工夫、主体的に音楽を学ぶ喜びを味わわせるための支援の在り方など、新学習指導要領の理念を具体化するために、多くの機会をもち、実践を伴った話し合いを重ねてきました。その結果、私たちのやるべきことが、ずいぶんイメージできるようになってきたと思っていたら、今年度は、新型コロナウイルスの影響で、2ヶ月間の臨時休校を余儀なくされました。その上、学校再開後も感染拡大防止のため、これまでのような音楽の授業を行うことはできませんでした。

私は、このような状況をチャンスと捉えたいと思います。これまで、歌唱や楽器演奏に偏っていた音楽活動を鑑賞の充実や音楽づくり（創作）に視点を置いた活動にすることで、音楽の授業改善のきっかけにできるのではないかと考えています。

実は、私は、自粛期間中にはまったものがあります。それは、「アカペラ」です。同じ曲をいくつかのアカペラグループが歌っていますが、その一つ一つの奏でるハーモニーが全く異なっています。聴き比べをして、どのハーモニーが好きか、どんなところが良いと思うのかを話し合うのもおもしろいと思います。そんなことを考えていたらワクワクしてきました。

音楽科の究極の目標は、生涯にわたって音楽を愛好する子どもを育てることです。私たち音楽教師が、ワクワクするような授業を創造する絶好の機会だと思い、皆でアイデアを出し合えたらと思っています。



響き合う 心と音楽 主体的に音楽に関わり 表現する喜びを味わう子どもを目指して

名古屋市音楽教育研究会副会長
名古屋市音楽研究会委員長
貴船小学校 吉松 頼美

本研究会では、平成25年度からメインテーマを「響き合う 心と音楽」として研究を行ってきました。29年度からは、「このように表現したい」という思いを音楽表現に生かしていくための支援の在り方や、豊かな音楽表現につながるための、効果的な仲間との関わらせ方について模索し、音楽的な感動体験を味わわせることを目指してきました。昨年度は、「どのような場面で」「どのような関わりをもつ」ことが、より豊かな音楽表現につながるかを明確にしたいと考え研究を進め、一定の成果を上げることができました。

しかし、音楽活動に取り組むための技能面の不安が活動に対する消極性を生んだり、対話的な活動に取り組む際の積極性に個人間の差が大きく見られたりしたという報告もありました。一人一人の音楽に向かう思いが、仲間との言葉、音や音楽を介した関わりを経て高まっていくことで、一つの音楽に向き合う仲間と心を通い合わせ、心から感動できる豊かな音楽表現を実現させることへと、つながっていくのではないかと考えます。

そこで、今年度はメインテーマ「響き合う 心と音楽」のもと、サブテーマを「主体的に音楽に関わり 表現する喜びを味わう子どもを目指して」とし、子どもたち一人一人が主体的に音楽活動に取り組むことができるようにするための支援の在り方や、表現することの喜びを十分に味わうことができるようにするための対話的・協働的な活動の在り方を追求していきます。子どもたちが、言葉、音や音楽を介して仲間と関わりながら主体的に音楽活動に取り組むようになり、豊かな音楽表現を追究する中で得られる感動体験を大いに味わうことができるようにする授業づくりを目指していきたいと考えます。

秋季研修会

9月26日（土）於；ルブラ玉山

【第1部 研究発表】

「音楽表現を工夫して歌唱する児童の育成」

—友達と協働して音楽活動を通して—

令和元年度 名古屋市教育研究員 岩塚小学校 鈴木好美 先生

曲を聴いたり歌詞や楽譜を見たりして、感じ取ったことや気付いたことを友達と伝え合う実践が紹介されました。友達と協働して音楽活動に取り組むことにより、思いや意図をもって楽曲に対するイメージを膨らませ、表情豊かに歌唱表現する児童の姿が報告されました。



【第2部 講演会】

「新学習指導要領 ～小中学校音楽科の指導と評価～」

名古屋学院大学准教授 江田 司 氏

はじめに、音楽的な見方・考え方についてのお話を伺いました。音楽的な見方・考え方を働かせた活動を通して、3つの資質能力「知識・技能」（習得）「思考力・判断力・表現力」（育成）「学びに向かう人間性」（涵養）がどのように育ったのかを評価することが大切であるとご指導いただきました。学習評価の充実については、評価の観点について、事前に決めておくことが大切であり、後付けでどれがAかを判断してはいけないと示されました。

最後に、3つの資質能力を評価するための音楽づくりや鑑賞活動の在り方についてご指導いただきました。「音楽づくりでは、教科書に示された通りに取り組めば、どの子どもも容易に旋律をつくることができる。だからこそ、教師には旋律の“質の違い”を見極めることが求められている」「鑑賞活動では、学習のねらいと関連付けながら、子どもの言葉で書かせることが大切である」ということを学ぶことができました。



音楽関係行事

9月26日（土）	秋季研修会	ルブラ玉山
11月11日（水）	第73回名古屋市教育祭 小中学校連合音楽会	日本特殊陶業市民会館（中止）
2月6日（土）	第30回名古屋市小学校バンド演奏会	名古屋市公会堂（中止）
	第21回名古屋市小中学校合唱フェスティバル	名古屋大学豊田講堂（中止）



令和2年度 名古屋市教育研究員

中村区 中村小学校 笹木 美幸先生
テーマ：主体的に表現活動に取り組む児童の育成
—思いを表す音楽づくりの活動を通して—



《裏面もご覧ください》

授業研究部の取り組み 6月26日(金)栄小学校 第1回 授業研究部会

授業研究部では、「授業力アップを目指したい!」というテーマで、よりよい授業について考えたり、情報交換したりしながら研究を進めています。

当日は、50名を超える先生方が参加し、コロナ禍での音楽科授業の在り方について情報交換しました。資料を持参してくださる先生方も多く、歌唱・器楽・創作・鑑賞の活動の指導における配慮と工夫、ICT機器活用の取り組み方等について、学び合いました。以下、当日話題に上がった内容です。



○ 歌唱について

「小さな声で歌う」のではなく、歌詞を思い浮かべながらしっかりと響きのあるハミングで歌うことにより、充実した表現に結び付ける指導の工夫が大切です。NやMのハミングで、響きを意識して歌うことが、将来歌詞で歌うことができるときの発声にもよい効果があるので、どんどんハミングでしっかりと表現させていきたいものです。

参加された志賀中学校の山本高栄先生が、当日学んだハミングの活用についてさっそく授業に取り入れ、実践されました。右の学習プリントを作成し、授業に取り組んだ結果、生徒の反応もよく活気のある授業となり、随分歌声が変わったという声をいただきました。

部会当日は、この他にも、曲に合わせて指揮を行う活動や範唱や楽譜から音楽を形づくっている要素の働きについて学ぶ活動等、コロナ禍の中でも歌唱表現の向上に結び付くような工夫や配慮について学びました。

○ 器楽について

小さな電子オルガンを購入し、鍵盤ハーモニカの代わりに利用している学校もあります。また、数多くの先生からタブレットで鍵盤楽器を演奏するように画面に触れることで代用しているという報告もありました。学校に配布されている学習用PCにあるキューブの「えんそう」を選択すると右のような画面が表示され、多くの児童が同時に取り組むことができます。

♪このプリントを欲しいという先生がいっぱいありましたら
志賀中 山本高栄先生までご連絡下さい。



○ 音楽づくりについて

デジタル教科書に含まれる「おとづくり」を選択すると、右の図のように、和音に合わせて旋律をつくったり、循環コードのよさを感じ取りながら音楽づくりを行ったりすることができます。音の高さやリズムを入力し、聴いて確かめることができる点や部分的に修正することが容易にできる点等、コンピュータのよさを生かして音楽づくりに必要な「試行錯誤を重ねること」ができます。実践した大森小の市場剛介先生から、「技能面の個人差に関係なく何度も試しながら、よりよい表現を目指す姿が見られた」という声をいただきました。



○ 鑑賞について

表現の活動に制限があるときだからこそ、鑑賞活動に見つめ直す機会にすべきであるという意見が出されました。文部科学省「子どもの学び応援サイト」に掲載されているホームページや教科書「まなびリンク」等、ICTを有効活用していくことについて話し合われました。

音楽科指導員 岩塚小学校 鈴木 好美先生に

With コロナ 「学校の新しい生活様式」における「音楽の授業」

についてお聞きしました!



9月、名古屋市教育委員会より教育活動再開後の対応について(ver.4)が通知されました。豊かな学びの実現に向かえるような手立てや、安心して音楽の授業を行うための工夫をご紹介します。

① 子どもたちに身に付けさせたい力は何かを考える

「今日の授業でこんな活動に取り組みませたい!」「この曲を子どもたちに歌わせたい!」という思いで授業づくりをしようとすると、マスクの着用や密を避ける等の制限があり悩むところです。

新しい学習指導要領では、子どもたちに身に付けさせたい力について、細かく示されています。例えば、小学校3・4年生の歌唱の活動では、「思考力、判断力、表現力等」に関する力(資質・能力)について、次のように記されています。

歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもつこと。

「この力を身に付けさせるために、今できる活動は何か」と考え、授業づくりをします。私の授業では、曲の特徴を捉えることができるように、デジタル教科書にある楽譜再生機能やパート別再生等、紙の教科書では実現できなかった「音の出る教科書」を活用しています。音を聴きながら視覚的に旋律の動きを確認することができ、とても便利です。マスクをして距離を保っているため、いつも以上に伴奏や自分の歌声、友達の歌声を「聴く」ということにも意識を向けることができると考えます。また、思いや意図をもつことができるように、写真や映像等を活用しています。歌詞や曲の背景を理解してイメージを膨らませることができます。

歌唱や器楽の活動に制限がある今だからこそ、音楽づくり(中学校では創作)や鑑賞においても、音楽を聴き比べたり、音楽の構造に目を向けたりする等の活動を取り入れることによって、子どもたちが思いや意図をもったり音楽の美しさを感じたりすることができると考えます。

② リコーダーを演奏する環境を整える

「マスクなしで、リコーダーを演奏する場合は、前後2メートルの距離を確保し、リコーダーを正しい構えで持ち、向き合わずに演奏する。」(「教育活動再開後の対応について」より抜粋)これを受け、私は、音楽室の床に目印のシールを貼り、机椅子をそのシールに合わせて並べました。

リコーダーからの飛沫や楽器の取り扱い方による危険性については、楽器会社等のウェブサイトで確認することができます。息の吹き込み方を強くしすぎたり、タンギングを鋭くしすぎたりすると、飛沫が飛ぶ可能性があります。飛沫が飛ばないような「優しい息で吹く」ということを意識することが、美しい音色で演奏することにもつながるのではないのでしょうか。

編集後記

コロナウィルス感染症に係る影響により、今年度の発行は2回とさせていただきます。そのため、今回は両面印刷による紙面とさせていただきます。様々な制限がある中での音楽活動について、少しでも読者の皆様の参考となる情報をお届けしたいと時間をかけて作成しました。お忙しい中、多くの皆様方に原稿をお寄せいただき、ありがとうございました。

広報部

♪ 第71号は 3月 8日(月)の発行予定です。

内容に関するお問い合わせは、名音教広報部 香流小 門脇 玲子まで、お知らせください。